



2020年1月16日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア サ カ 理 研
代 表 者 名 代表取締役社長 油 木 田 祐 策
(コード番号：5724)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 佐 久 間 良 一
TEL. 024-944-4744(代)

2020年9月期 連結業績予想に関するお知らせ

2020年9月期の第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2020年9月期の見通し

当社の主要な取引先である電子部品・デバイスメーカーの生産は、中国経済の減速、米中貿易摩擦等に起因する減産が下げ止まりをみせているものの、生産回復の見通しは不透明な状況にあります。2020年後半には、主に通信インフラ及び車載向けにおいて回復局面に転じると見込んでおりますが、前期から継続している主要取引先の減産影響を期首から織り込んでおり、通期での貴金属取扱数量は前期を下回る見通しです。

貴金属の価格は、米国経済が引き続き堅調に推移し金利政策も当面維持されると想定されることから、円建ての価格は前期平均の水準と予想しております。銅の価格は、中国経済の減速が継続していることから前期を下回ると予想しております。

また、2019年10月に発生した台風19号による水害により、環境事業の一部製品を生産する富久山工場が操業を停止しております。操業再開は4月を予定しておりますが、上期については減益の要因となります。

このような事業環境のもと、当社グループは電子部品・デバイスメーカーの生産回復期において、いち早く市場ニーズに応えることが出来るよう、これまで進めてきた企業体質強化の取り組みを継続し、既存事業の強化と効率化、レアメタル事業を中心とする新規事業の収益化に注力してまいります。既存事業では、貴金属材料の供給による付加価値向上、製造工程の自動化による効率改善等に継続して取り組んでまいります。レアメタル事業では、回収する原料の幅を広げながら材料化技術を高めることにより、製品の多様化・取扱品目の拡大に取り組んでまいります。リチウムイオン電池等に使用されたレアメタルの再生につきましては、二次電池材料メーカーの評価試験を継続し、早期事業化に向けた取り組みを加速してまいります。

以上により、売上高は6,754百万円(対前期30.6%減)を予想しております。主な減少要因は、貴金属事業において、前期スポットで発生した高品位貴金属の取引による減少及び海外子会社での減少によるものです。これに加え、前期から継続している主要取引先の減産影響を期首から織り込んでいることから、売上高は前期を下回る見通しです。

営業利益は△16百万円（対前期 110.2%減）を予想し、経常利益は△52百万円（対前期 138.2%減）を予想しております。貴金属事業の主要取引先減産影響のほか、2019年10月に発生した台風19号の水害による環境事業の減益により、営業・経常損失となります。一方、4月には水害により操業を停止していた富久山工場の再開を予定しており、4月から9月の下半期においては、営業・経常利益は黒字に回復する見通しです。

親会社株主に帰属する当期純利益は△49百万円（対前期 160.5%減）を予想しております。特別利益に台風被害による保険金の受け取り見込み額679百万円及び特別損失は、台風被害による復旧に関する費用627百万円及び海外子会社の撤退に関連する費用53百万円の合計681百万円の発生を予定しております。

2. 2020年9月期の連結業績予想（2019年10月1日～2020年9月30日）

(1) 2020年9月期第2四半期累計業績予想（2019年10月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回発表予想 (B)	3,334	△68	△69	△8	△3.13
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半 期実績	4,900	132	133	95	37.52

(2) 2020年9月期業績予想（2019年10月1日～2020年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回発表予想 (B)	6,754	△16	△52	△49	△19.18
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2019年9月期)	9,737	157	136	81	31.71

以上